



2025年 露地シャインマスカット・クイーンルージュ®病害虫防除暦

JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 1000ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
／	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	【特別散布】 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ トクチオン水和剤 125 g	発芽前 45日前	3回	300	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。 ② トクチオン水和剤に代えて、ラビキラー乳剤 200 倍(発芽前、2回)を散布してもよい。ただし、発芽後の散布は葉害が発生するので散布時期を厳守する。
／	4月下旬 (発芽直前)	① 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ デランフロアブル 500 mℓ	休眠期	1回	300	黒とう病 晩腐病	① 注意!デランフロアブルは葉焼け等の葉害が発生するため、発芽前に散布を完了する。
／	5月初旬 カイガラムシ 特別対策	【樹幹塗布】 水 20 mℓ アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで	塗布 1回	1樹当り 20-40 mℓ	コナカイガラムシ類 (クビアカスカシバ)	塗布方法 ① 水:アルバリン=1:1で調合 ② 目安:直径10cm以上の樹20mℓ、直径20cm以上40mℓ ③ 主幹分岐部下30~50cm程度、粗皮削りし塗布する。 コウモリガ対策 ① ガットサイドSの1.5倍(幼虫喰入直前~喰入初期、2回)を主幹部の地際から30cmの位置まで塗布する。
／	5月上旬 (発芽直後)	② 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ モスピラン顆粒水溶剤 50 g	14日前	3回	300	アザミウマ類 ツマグロアオカシカメ カイガラムシ類	① 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。 ② モスピラン顆粒水溶剤に代えて、スミチオン水和剤40の1,000倍(21日前、2回)を使用してもよい。
／	5月中旬 展葉3枚頃	③ 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ トレノックスフロアブル 100 mℓ ダイアジノン水和剤34 100 g	60日前 30日前	2回 2回	300	黒とう病・べと病・ 晩腐病・クワコナカ イガラムシ若齢幼虫	
／	5月下旬 展葉6枚頃	④ 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ オーソサイド水和剤80 125 g	30日前	3回	300	べと病・灰色かび病 晩腐病・黒とう病	① 今回防除から10日間隔の散布を目安とする。
／	6月上旬 展葉9枚頃	⑤ 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ ドーシャスフロアブル 50 mℓ	60日前	3回	300	べと病 晩腐病・黒とう病	① カシカメ類・カイガラムシ類対策:コルト顆粒水和剤3,000倍(前日、3回)を加用する。
／	6月上旬 展葉9枚頃	展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ ストマイ液剤20 100 mℓ	満開予定日 14日前~ 開花始期	1回	300	無種子化	① 注意!有核巨峰には飛散しないようにする。 ② 散布遅れないようにする。
／	6月上旬 展葉7~11枚頃	展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ フラスター液剤 50 mℓ	新梢展開葉 7~11枚時 (開花始期まで)	2回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容(ラベル等)を確認する。 シャインマスカット・クイーンルージュ®:2,000倍 弱樹勢樹や若木等は新梢伸長が弱る可能性があるため、散布を控える。
／	6月中旬 開花直前	⑥ 展着剤(ハイテンパワー) 10 mℓ パレード15フロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤80 125 g トクチオン水和剤 125 g	7日前 30日前 45日前	2回 3回 3回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 主幹害虫対策:主幹・主枝等にも薬液が到達するようにする。 ② アザミウマ類対策:花穂(軸部)に薬液が到達するようにする。
／	前回から 10日後 (落花直後)	⑦ グレーシアフロアブル 25 mℓ スイッチ顆粒水和剤 33 g ゾーベックエニベル顆粒水和剤 133 g	7日前 30日前 45日前	2回 2回 2回	400	べと病・晩腐病 灰色かび病 チャノキイロアザミウマ ブドウサビダニ (ミカンキイロアザミウマ) (コガネムシ類)	① 注意:ジマンダイセン・ゾーベック等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ② サビ防止対策:花冠の飛び等を確認し散布する。 ③ 果紛溶脱防止:展着剤は今回から第10回まで使用しない。
／	満開 10日後	登録品種:シャインマスカット・ ピオーネ・ナガノパープルのみ フラスター液剤 200 mℓ	満開10日 ~20日後、 但し60日前まで	2回	150	新梢伸長抑制	① 登録品種:シャインマスカット・ピオーネ・ナガノパープルのみ(ナガノパープルは、収穫前日数(60日前)に注意する)。 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る恐れがあるため、散布を控える。
／	前回から 10日後 (落花10日)	⑧ フェニックスフロアブル 25 mℓ トランスフォームフロアブル 50 mℓ ジマンダイセン水和剤 100 g	14日前 3日前 45日前	2回 3回 2回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・褐斑病 スカシバ類 カイガラムシ類 (アザミウマ類)	① 注意:ジマンダイセン・ゾーベック等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を2回までとする。 ② 代替:ジマンダイセン水和剤に代えて、ホライズンドライフロアブル2,500倍(21日前、3回)を使用してもよい。
／	前回から 10日後 (落花20日)	⑨ レーバスフロアブル 50 mℓ アミスター10フロアブル 100 mℓ ディアナWDG 10 g	7日前 30日前 前日	3回 3回 2回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	
／	前回から 10日後 (落花30日)	⑩ ライメイフロアブル 25 mℓ オンリーワンフロアブル 50 mℓ アーデントフロアブル 50 mℓ	14日前 前日 前日	3回 3回 4回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 ハダニ類 アザミウマ類	① 袋かけ直前の散布とする。 ② クイーンルージュ®晩腐病・黒とう病強化対策:オンリーワンフロアブルに代えて、ミギワ20フロアブル2,000倍(前日、3回)を使用してもよい。
／	7月下旬 (袋かけ直後)	⑪ 展着剤(アビオン-E) 50 mℓ アルバリン顆粒水溶剤 50 g ムッシュボルドーDF 200 g	前日 -	3回 -	400	べと病・さび病 チャノキイロアザミウマ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コナカイガラムシ類	① ハダニ類 対策:コロマイト水和剤2,000倍(7日前、2回)を加用する。 ② クビアカスカシバ対策:パダシ SG 水溶剤1,500倍(21日前、5回)を加用する。 ③ ムッシュボルドーDFを使用する場合は、高温時や降雨後の散布で葉害を生じる恐れがあるため、クレフノン100倍を加用する。
／	8月上旬 (前回から 10日後)	⑫ 展着剤(アビオン-E) 50 mℓ ICボルドー66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	- 14日前	- 1回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病 チャノキイロアザミウマ	① コガネムシ類対策:テルスター水和剤に代えて、イカズチWDGの1,500倍(21日前、5回)を使用する。ただし、早生種は収穫前規制に注意する。
／	8月中旬 (前回から 10日後)	⑬ 展着剤(アビオン-E) 50 mℓ ICボルドー66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① ICボルドー66D代替 ムッシュボルドーDFの500倍又はコサイド3000の2,000倍又は園芸ボルドーの500倍を使用してもよい。ただし、変更する場合は、高温時や降雨後の散布で葉害を生じる恐れがあるため、クレフノン100倍を加用する。
／	8月下旬 (前回から 10日後)	⑭ 展着剤(アビオン-E) 50 mℓ ICボルドー66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① ICボルドー代替:前項同様
／	9月上旬 (除袋直前)	【特別散布】 展着剤(アビオン-E) 50 mℓ ICボルドー66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	② 収穫中の園地に飛散しないように注意する。

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

◆ 混用例:展着剤 ⇒ 液剤 ⇒ 乳剤 ⇒ 顆粒水溶剤 ⇒ 水溶剤 ⇒ フロアブル ⇒ ドライフロアブル(DF) ⇒ 顆粒水和剤(WDG) ⇒ 水和剤